



# 第2期 角田市 スポーツ推進計画



『アクティブシティかくだ』の実現  
～ 明るく楽しく健康で活力のあるまちづくり ～



令和 6 年 3 月

角 田 市

## 目次

第1章 計画の策定にあたって.....	1
1 計画策定の目的.....	1
2 計画におけるスポーツの定義.....	1
3 計画の位置づけ.....	2
4 計画の期間.....	2
5 策定の体制.....	2
第2章 角田市のスポーツを取り巻く状況.....	3
1 社会情勢及び国の動向.....	3
2 角田市の現状.....	6
3 アンケート調査の結果.....	10
第3章 第1期計画の検証.....	14
1 成果指標の達成状況.....	14
2 施策の方向性ごとの振り返り.....	16
第4章 計画の方向性.....	21
1 基本理念.....	21
2 本計画の基本目標.....	23
3 本計画の成果指標.....	25
第5章 施策の展開.....	26
基本目標1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進.....	26
基本目標2 日常における身体活動の推進.....	29
基本目標3 地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進.....	31
基本目標4 誰もが快適に親しむことができるスポーツ環境の整備.....	33

# 第1章 計画の策定にあたって

## 1 計画策定の目的

角田市では、平成26年3月に「角田市スポーツ推進計画」を策定し、『市民1人1スポーツ』生涯スポーツ社会の実現～いつでも、どこでも生活の中で自然にスポーツを親しめる『スポーツ・イン・ライフ』を目指し、明るく健康で活力のあるまちづくり～』を基本理念としてスポーツ振興施策を展開してきました。

令和元年には中間見直しを行い、市民、地域、各種団体にスポーツの広がり・新たな価値観を浸透させていくため、『みんなでスポーツを楽しむ風土を醸成するための取組み』を新たに追加した後期計画を策定しました。

この間、新型コロナウイルス感染症の拡大や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等により、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しており、市民の生活や価値観に大きな影響を与えています。

また、スポーツに関する国の政策動向を見ると、令和3年度に策定された「第3期スポーツ基本計画」をはじめ、スポーツ実施率の向上や女性活躍推進に関する政策、障がい者スポーツや学校体育・運動部活動に関する政策等が進められており、本市においてもこのような政策動向に応じた施策の体系化が必要となっています。

このような背景を踏まえ、スポーツを取り巻く現状と課題を整理し、「第2期角田市スポーツ推進計画」を策定します。

## 2 計画におけるスポーツの定義

国の「スポーツ基本法」では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性等に応じて、安全かつ公正な環境の下で日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない。」とされています。

本計画においても、スポーツをより身近なものと感じていただくため、スポーツの概念を幅広く捉えており、ルールに基づいて勝敗や記録を競う競技性の高いものだけでなく、健康の保持増進のためのウォーキングや体操、トレーニング、公園での外遊びのほか、演劇、舞踊等の芸術文化活動や、地域の社会貢献活動等に伴い身体を動かすこと等、身体活動の全てをスポーツとして扱います。

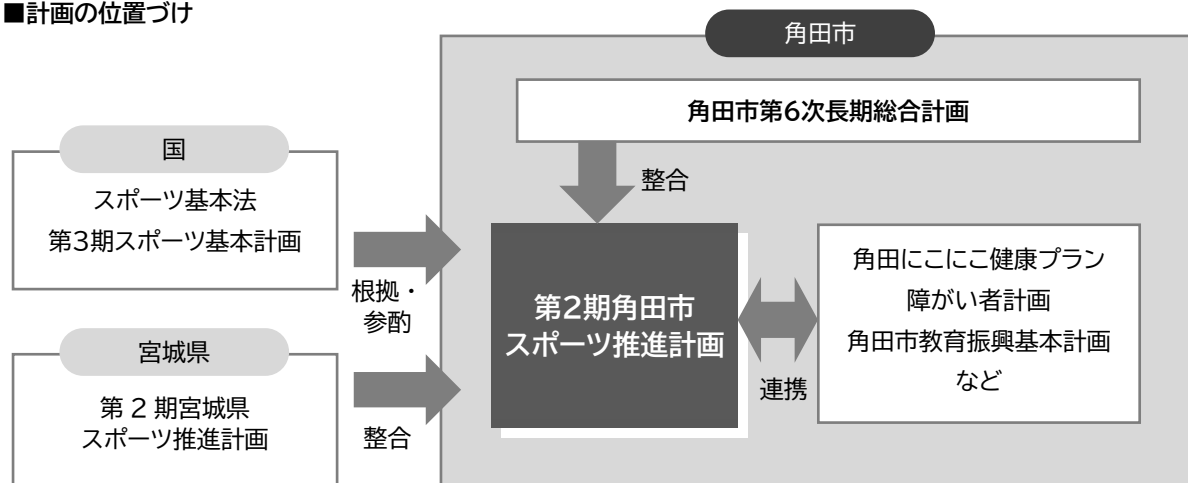
\* スポーツ基本法前文より。

### 3 計画の位置づけ

本計画は、スポーツ基本法第10条に基づき、国の「第3期スポーツ基本計画」を参酌し、本市の実情に即した「地方スポーツ推進計画」です。

国、県の取組みとの整合を図った上で、市のスポーツに係る基本計画として策定するほか、本市の「角田市第6次長期総合計画」との整合及び関連計画との連携を図ります。

#### ■計画の位置づけ



### 4 計画の期間

本計画は、令和6年度から令和15年度までの10年計画とし、必要に応じて中間見直しを行うこととします。

### 5 策定の体制

本計画の策定にあたって以下のアンケート及び会議を行いました。

#### ①アンケート調査の実施（「健康増進計画」「食育推進計画」「自死対策推進計画」策定にかかるアンケート調査として実施）

- ◇調査対象者：市内在住の18歳以上の方（無作為抽出）
- ◇調査期間：令和4年11月21日（月）～12月12日（月）
- ◇調査方法：郵送配布・郵送回収による本人記入方式、またはWEBでの回答
- ◇配布数：1,800件
- ◇有効回収数：784件
- ◇有効回収率：43.6%

#### ②スポーツ推進審議会及びスポーツ関係者会議の開催

有識者及び市内関係団体代表者等で構成される各会議において、本計画の策定、その他の必要な事項について協議しました。

# 第2章 角田市のスポーツを取り巻く状況

## 1 社会情勢及び国の動向

### (1) 社会情勢

#### 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大により、運動不足による健康二次被害、スポーツに親しむ上で「新しい生活様式」への対応の必要性、スポーツ施設の利用制限、学校運動部活動やスポーツ大会・イベントの延期・中止等が生じています。その一方で、成人における週1回以上のスポーツ実施率は感染拡大前よりも向上しており、感染拡大前後でスポーツ実施意欲が高くなった人が低くなった人よりも多い傾向にあることが明らかになっています。

国が示した「新しい生活様式」に留意しながらスポーツを推進することが求められており、その在り方は仲間とスポーツ施設で楽しむものから、一人で自宅又はその周辺で取り組むものまで幅広くとらえることが重要となっています。

#### 健康寿命の延伸と人生100年時代の到来

日本人の健康寿命は世界最高水準であり、更なる延伸が予想されています。こうした背景を受け、政府は「人生100年時代構想会議」を立ち上げ、幼少期から高齢者まで全ての人々が元気に活躍し続けることのできる社会の実現を目指しています。人生100年時代の基盤は、一人ひとりの心身の健康であり、スポーツは市民の健康づくりや仲間づくりに寄与する活動として期待できます。

#### 国際スポーツ大会を契機としたレガシー

令和元年にはラグビーワールドカップ2019™が開催され、開幕前の予想を大きく上回る盛り上がりを見せました。また、東京2020大会は新型コロナウイルス感染症の拡大により、開催が令和3年に延期となりましたが、安全・安心に大会が開催されました。

このような国際スポーツ大会を契機としたスポーツに対する機運の高まり等、レガシーを生かした取組みが求められます。

また、スポーツ庁では、スポーツを行うことが生活習慣の一部となり、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会の実現のため、「Sport in Life プロジェクト」に取り組んでおり、地方公共団体、スポーツ団体、経済団体、企業等が一体となったスポーツ人口の拡大を推進しています。

## 地方創生、まちづくりの一環としてのスポーツ振興

全国的に人口減少が進む中で、交流人口拡大の取組みとして、スポーツと景観・環境・文化等の地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することでまちづくりや地域活性化につなげる取組みが全国で進められています。

スポーツへの参加や観戦を目的とした旅行、スポーツと観光を組み合わせた取組みである「スポーツツーリズム」や、地域外から参加者を呼び込む「地域スポーツ大会・イベントの開催」、国内外の大規模な「スポーツ大会の誘致」、プロチームや大学等の「スポーツ合宿・キャンプの誘致」、住民向けの「地域スポーツクラブの運営」、「健康増進・地域交流イベントの開催」等が代表的な取組みです。

これらの取組みを推進する組織として、各地域で「地域スポーツコミッション」が立ち上げられています。

## 部活動改革の推進

中学校の部活動において、生徒のニーズの多様化、生徒数減少に伴う部活動メニューの縮小、教員数の減少と勤務負担増等を背景に、これまで学校教員が担ってきた部活動の指導を、地域団体や関係事業に担ってもらうことで地域の活動に位置づける取組み(地域部活動)が推進されています。

令和4年12月に、スポーツ庁と文化庁の両庁名で「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が策定されました。地域移行はすでにモデル校で試行的に取り組まれています。公立中学校の休日の部活動については、令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域移行に段階的に取り組むこととしています。

休日の部活動の地域移行について、受け皿となる地域スポーツクラブ、学校教員(顧問)に代わって部活動を指導できる人材の確保等、課題も山積しています。

また、この地域部活動の推進を契機として、平日を含めた「学校部活動のあり方」について、学校、生徒及び保護者と今後、更なる検討が必要となります。

## (2) 国が策定した第3期スポーツ基本計画の概要

共生社会の実現や多様性と調和への関心がより一層高まる中、令和3年度に策定された「第3期スポーツ基本計画」では、スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すため、以下の内容が示されています。

### ■第3期スポーツ基本計画の概要

#### 1. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策

- 持続可能な国際競技力の向上
- 共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進
- スポーツを通じた国際交流・協力
- 大規模大会の運営ノウハウの継承
- 地方創生・まちづくり
- スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

#### 2. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策

##### ①スポーツを「つくる/はぐくむ」

→社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に対応するというスポーツを『つくる/はぐくむ』という視点

##### ②スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

→様々な立場・背景・特性を有した人・組織が『あつまり』、『ともに』活動し、『つながり』を感じながらスポーツに取り組める社会の実現を目指すという視点

##### ③スポーツに「誰もがアクセスできる」

→性別、年齢、障害の有無、経済的事情、地域事情等にかかわらず、全ての人がスポーツにアクセスできるような社会の実現・機運の醸成を目指すという視点

#### 3. 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策

- ①多様な主体におけるスポーツの機会創出
- ②スポーツ界におけるDXの推進
- ③国際競技力の向上
- ④スポーツの国際交流・協力
- ⑤スポーツによる健康増進
- ⑥スポーツの成長産業化
- ⑦スポーツによる地方創生、まちづくり
- ⑧スポーツを通じた共生社会の実現
- ⑨スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化
- ⑩スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材
- ⑪スポーツを実施する者の安全・安心の確保
- ⑫スポーツ・インテグリティの確保

## 2 角田市の現状

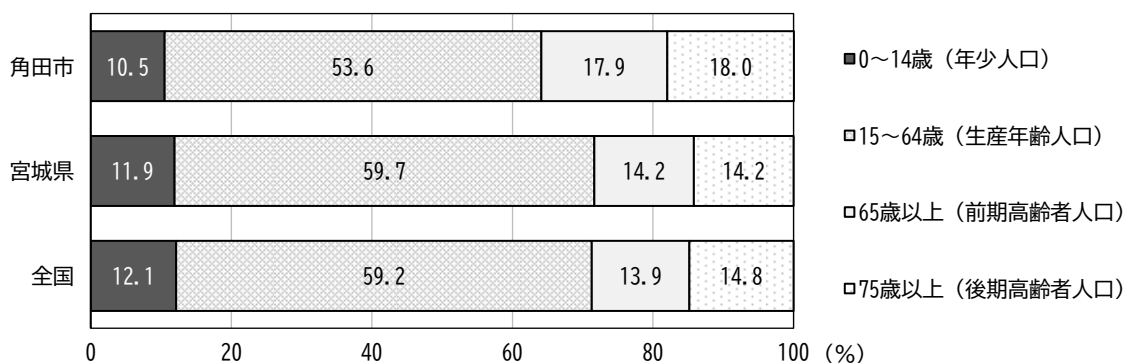
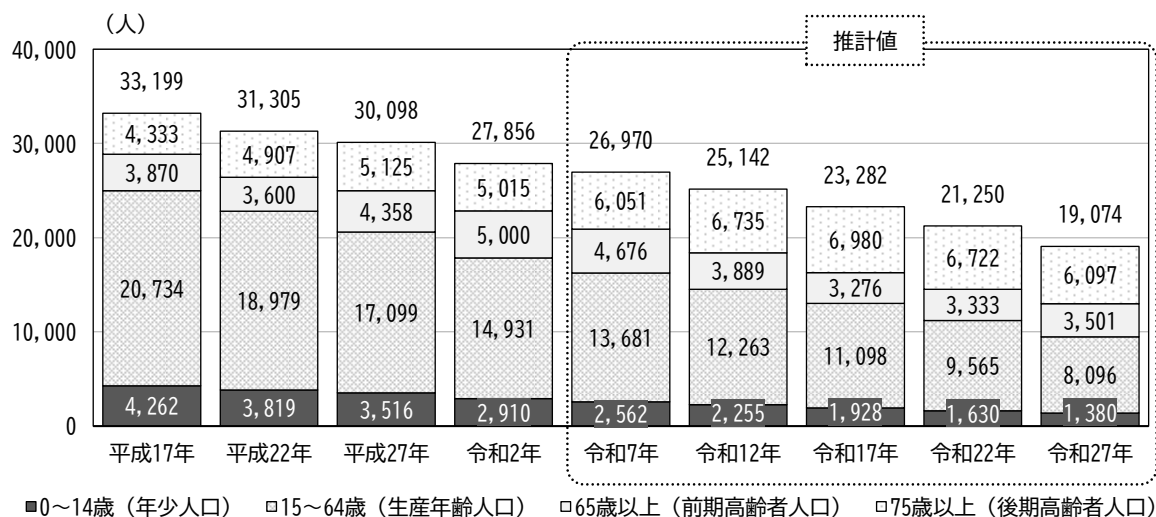
### (1) 人口について

本市の総人口は減少しており、令和2年には27,856人となっています。

また、年少人口・生産年齢人口は減少傾向にある一方で、高齢者人口は増加傾向にあり、今後とも高齢化が進行することが推測されます。

前期高齢者人口割合、後期高齢者人口割合がともに全国・宮城県に比べて高くなっています。

■年齢別人口の推移（資料 | 実績値:国勢調査、推計値:国立社会保障・人口問題研究所）



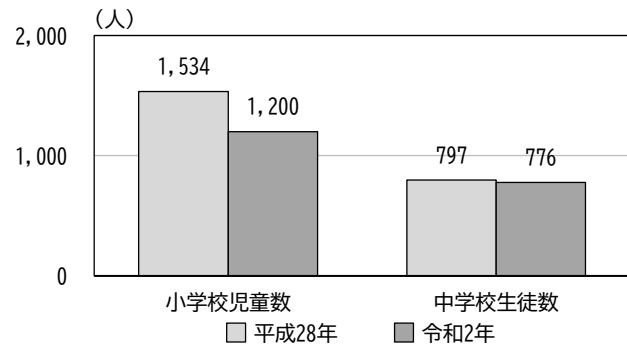


## (2) 児童・生徒の状況について

### ①児童・生徒数について

平成28年度から令和2年度にかけて、小学校児童数は2割以上減少しています。一方で中学校生徒数は微減にとどまっています。

■児童・生徒数の推移（資料 | 宮城県学校基本調査結果確報）



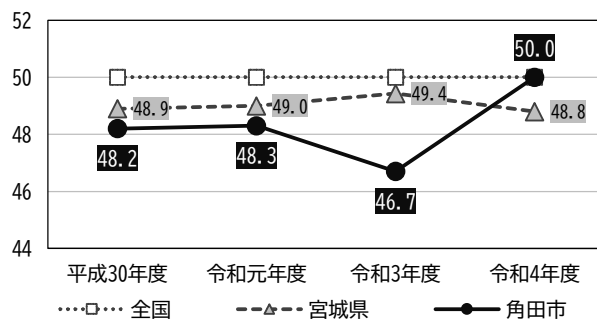
### ②小中学生の体力・運動能力の変化について

小学生の体力・運動能力調査(実技)の結果は、男女とも国、県を下回って推移していましたが、令和4年度に増加し、県の水準を上回っています。

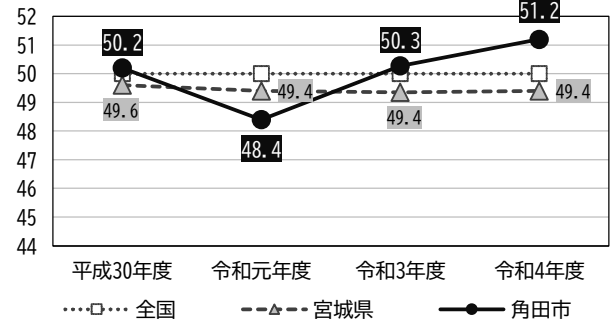
中学生の体力・運動能力調査(実技)の結果は、男子の令和3年度を除き、国、県を下回っています。

■【小学生】体力・運動能力調査(実技)の総合結果の推移（資料 | 全国体力・運動能力、運動習慣等調査基本集計）

#### 男子



#### 女子



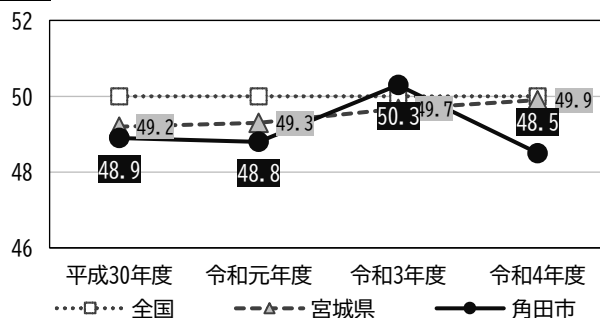
※全国値を50とした場合の点数

※8種目で実施(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、シャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ)

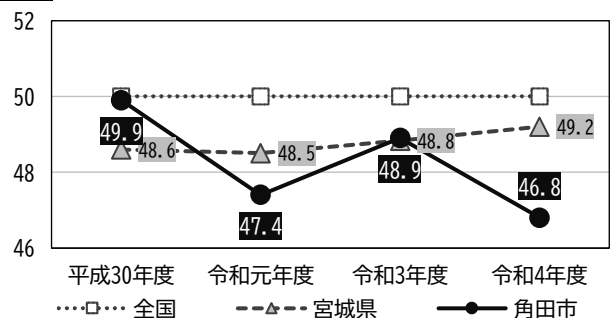
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施せず。

■【中学生】体力・運動能力調査(実技)の総合結果の推移（資料 | 全国体力・運動能力、運動習慣等調査基本集計）

#### 男子



#### 女子



※全国値を50とした場合の点数

※9種目で実施(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、持久走、シャトルラン、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ)

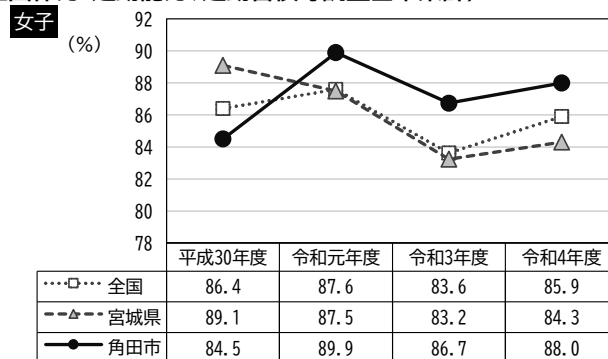
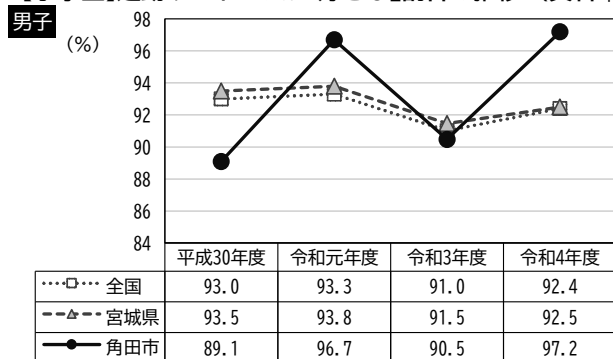
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施せず。

### ③小中学生の運動・スポーツへの意識の変化について

運動やスポーツが『好きな』割合は、小学生では、男子で令和4年度に国、県を上回り、女子で令和元年度以降に国、県を上回っています。

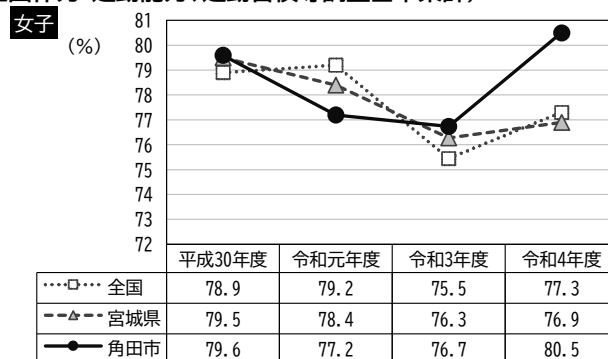
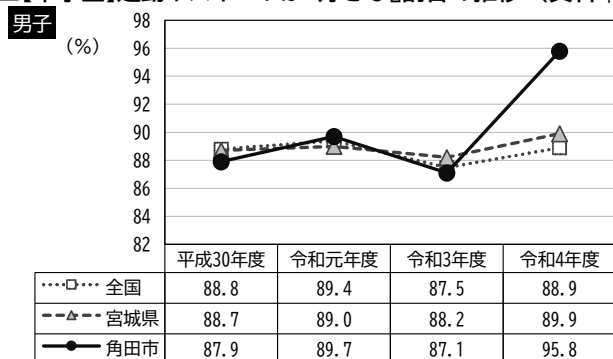
中学生では、令和4年度に男女ともに大きく増加しています。

■【小学生】運動やスポーツが『好きな』割合の推移（資料 | 全国体力・運動能力、運動習慣等調査基本集計）



※「好き」「やや好き」と回答した割合の合計

■【中学生】運動やスポーツが『好きな』割合の推移（資料 | 全国体力・運動能力、運動習慣等調査基本集計）



※「好き」「やや好き」と回答した割合の合計

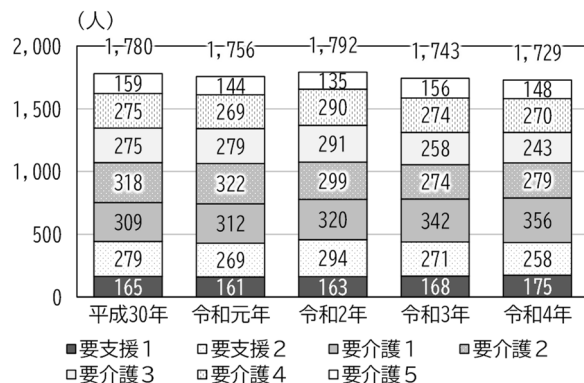
### (3) 要支援・要介護認定者数について

要支援・要介護認定者数の推移はほぼ横ばいとなっています。また、令和2年と平成30年を比べると、要介護2～要介護5は減少傾向にあり、中度・重度の増加が抑えられています。一方で、要介護1が増加傾向にあります。

要支援・要介護認定率は減少傾向にあり、全国・宮城県の水準を下回って推移しています。

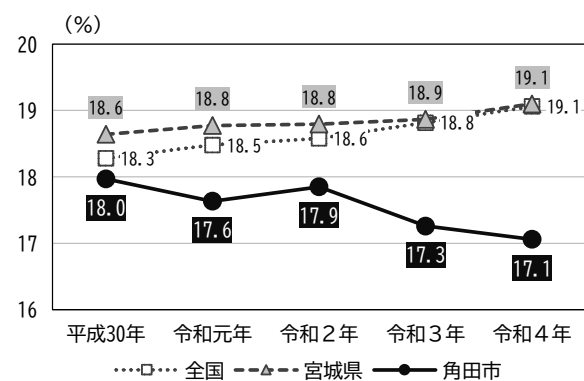
#### ■要支援・要介護認定者数の推移

(資料 | 厚生労働省 介護保険事業状況報告)



#### ■要支援・要介護認定率の推移

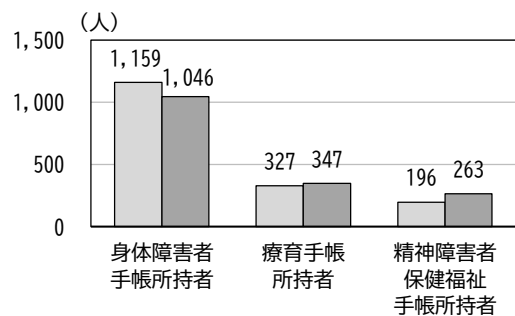
(資料 | 厚生労働省 介護保険事業状況報告)



### (4) 障害者手帳所持者について

障害者手帳所持者についてみると、身体障害者手帳所持者が減少している一方で、療育手帳所持者は微増、精神障害者保健福祉手帳所持者は増加傾向となっています。

#### ■障害者手帳所持者数(資料 | 社会福祉課)

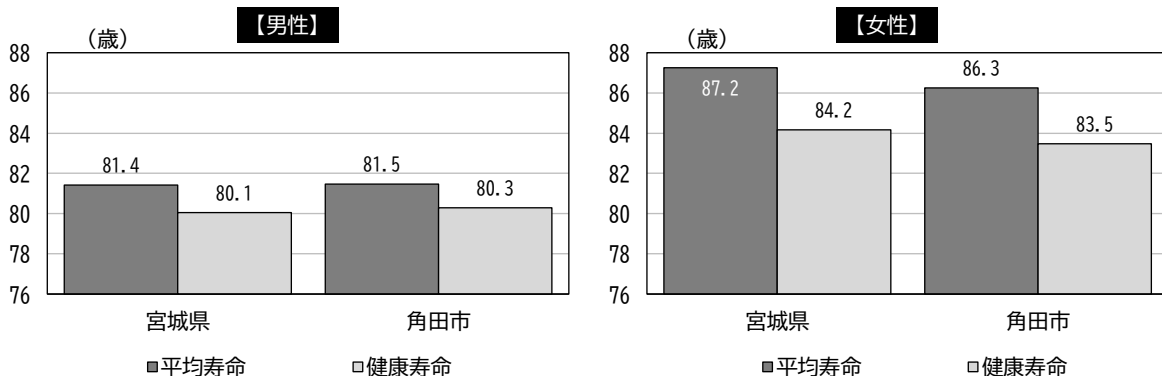


※各年3月末日現在

### (5) 平均寿命・健康寿命について

男性・女性ともに、平均寿命・健康寿命が宮城県と同等になっています。

#### ■平均寿命・健康寿命【令和2年】(資料 | データからみたみやぎの健康-令和4年度版-)

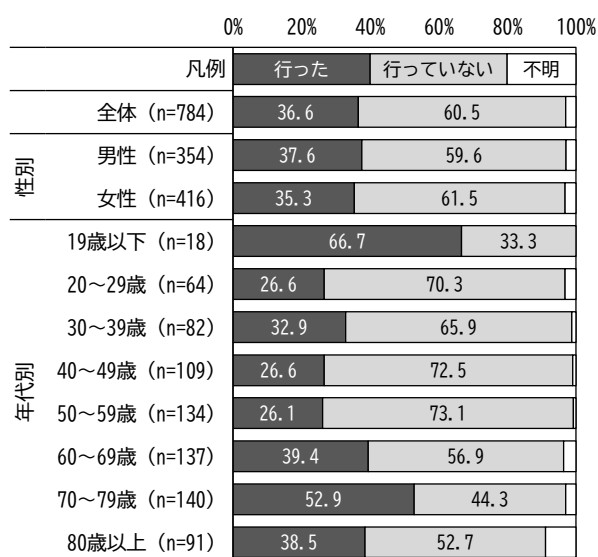


### 3 アンケート調査の結果

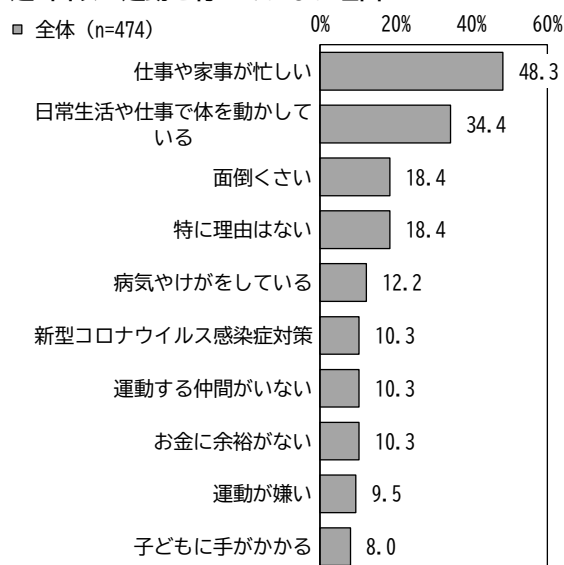
#### (1) 習慣的な運動について

最近1年間において、週1回以上運動を行ったかをたずねたところ、「行っていない」が60.5%と、「行った」の36.6%を上回っています。また、年代別では、「19歳以下」「70～79歳」では「行った」が「行っていない」を、他の年代では「行っていない」が「行った」をそれぞれ上回っています。週1回以上運動しなかった理由をみると、「仕事や家事が忙しい」が48.3%と最も多く、次いで「日常生活や仕事で体を動かしている」が34.4%となっています。

■最近1年間において週1回以上運動を行ったか



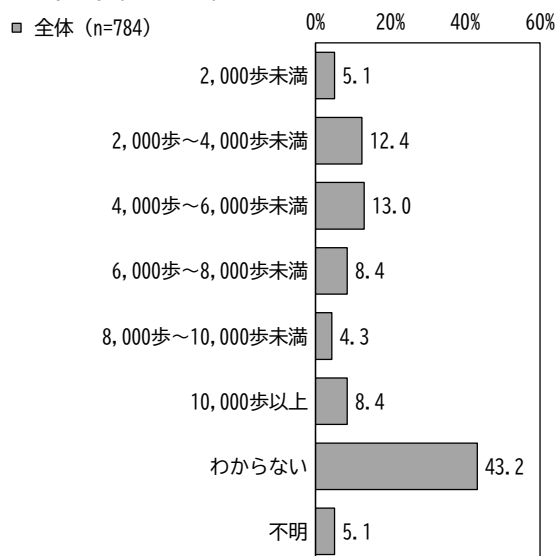
■週1回以上運動を行っていない理由



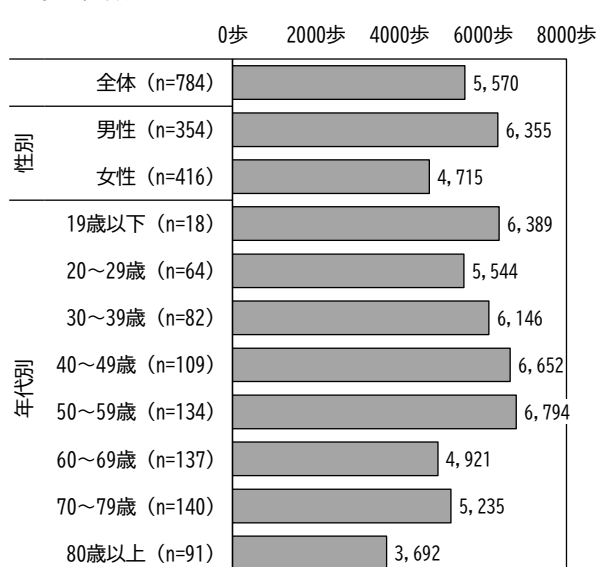
1日平均何歩くらい歩いていると思うかをたずねたところ、歩数記載ありのうち、平均歩数は、「4,000歩～6,000歩未満」が13.0%と最も多く、次いで「2,000歩～4,000歩未満」が12.4%、平均歩数は5,570歩となっています。

年代別の平均歩数をみると、「50～59歳」が最も多く、次いで「40～49歳」「19歳以下」となっています。また、「80歳以上」で最も少なくなっています。

■1日平均何歩くらい歩いていると思うか



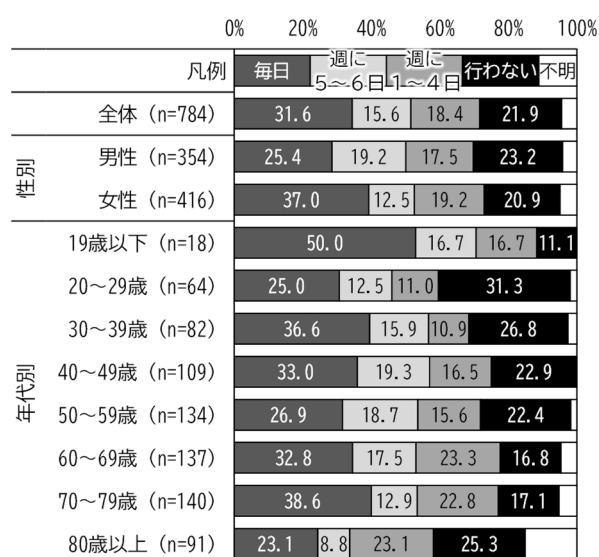
■平均歩数



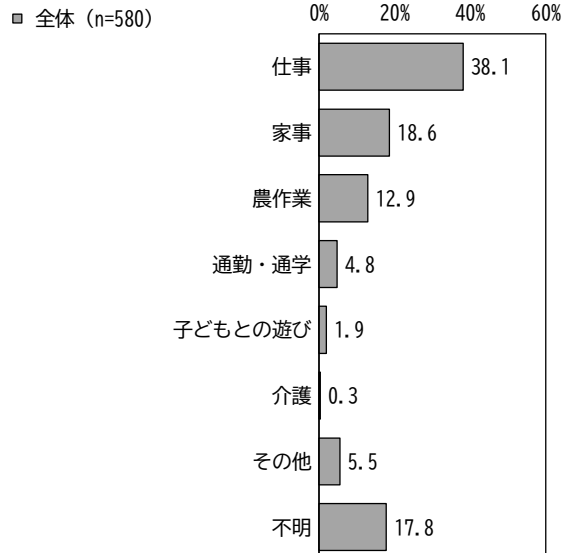
1週間の運動以外の身体活動日数についてみると、「毎日」が 31.6%と最も多く、次いで「行わない」が 21.9%、「週に5～6日」が 15.6%となっています。年代別にみると、「20～29 歳」「80 歳以上」では「行わない」、他の年代では「毎日」が最も多くなっています。

身体活動の主な場面についてみると、「仕事」が 38.1%と最も多く、次いで「家事」が 18.6%、「農作業」が 12.9%となっています。

■1週間の運動以外の身体活動日数



■身体活動の主な場面

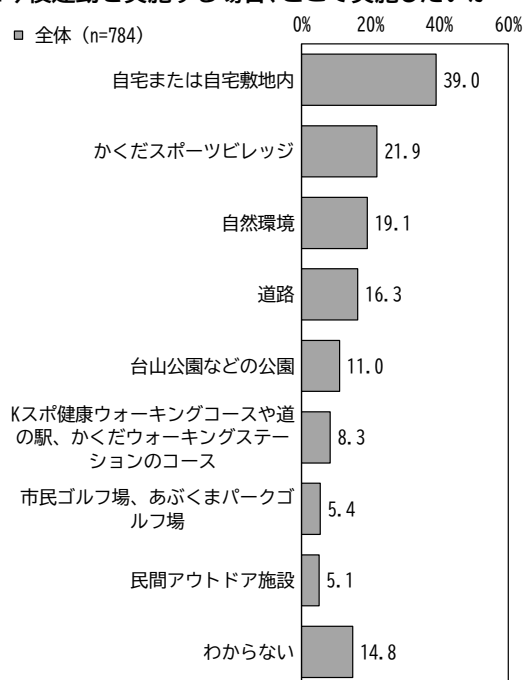


※運動以外の身体活動とは：日常生活における労働、家事、通勤、通学等で体を動かす活動を指します。今回のアンケート調査では生活習慣病のリスク軽減があると考えられている「歩行と同程度かそれ以上に体を動かす身体活動」を運動以外にどの程度行っているかについてお聞きしています。

## (2) 今後の運動について

今後運動を実施する場合、どこで実施したいかについてみると、「自宅または自宅敷地内」が 39.0%と最も多く、次いで「かくだスポーツビレッジ(角田中央公園等)」が 21.9%、「自然環境(山岳、森林、海、湖、川等)」が 19.1%となっています。

■今後運動を実施する場合、どこで実施したいか



### ※K スポ健康ウォーキングコース

かくだスポーツビレッジ(以下、「Kスポ」という。)の公園内に、安全に歩ける初心者向けの2.3Kmのウォーキングコースがあります。

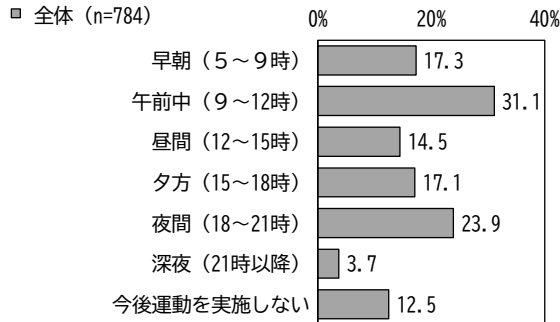
### ※道の駅かくだウォーキングステーション

日本市民スポーツ連盟公認のウォーキングコースの発着地点のことで、道の駅かくだには、5コース(5～14Km)あり、自由に歩くことができます。さらに、パスポートを道の駅かくだで購入すると記録が記載され、基準に達すると、表彰・記念品を受け取ることができます。

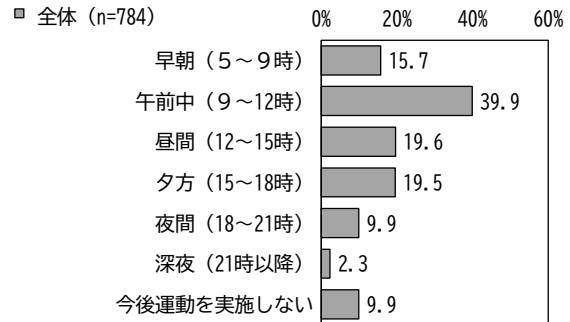
今後運動を実施する場合、平日に実施したい時間帯についてみると、「午前中(9～12時)」が31.1%と最も多く、次いで「夜間(18～21時)」が23.9%、「早朝(5～9時)」が17.3%となっています。

今後運動を実施する場合、休日に実施したい時間帯についてみると、「午前中(9～12時)」が39.9%と最も多く、次いで「昼間(12～15時)」が19.6%、「夕方(15～18時)」が19.5%となっています。

■今後運動を実施する場合、平日に実施したい時間帯



■今後運動を実施する場合、休日に実施したい時間帯

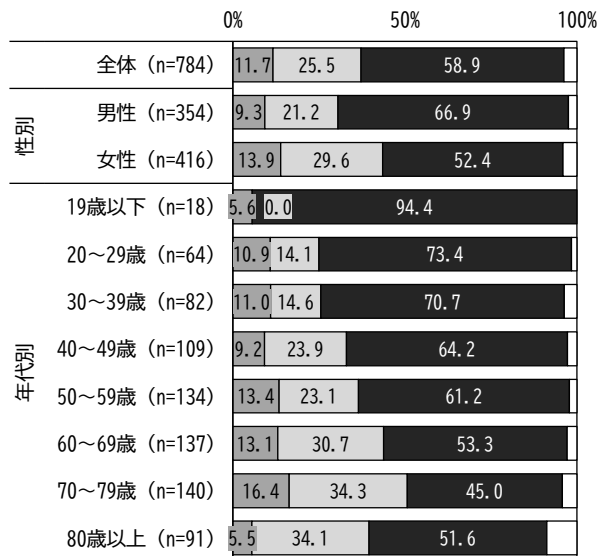


### (3) ロコモティブシンドローム・フレイルの認知度について

ロコモティブシンドロームの認知度についてみると、「知らなかった」が58.9%と最も多く、「内容まで知っている」が11.7%となっています。

フレイルの認知度についてみると、「知らなかった」が65.2%と最も多く、「内容まで知っている」が11.7%となっています。

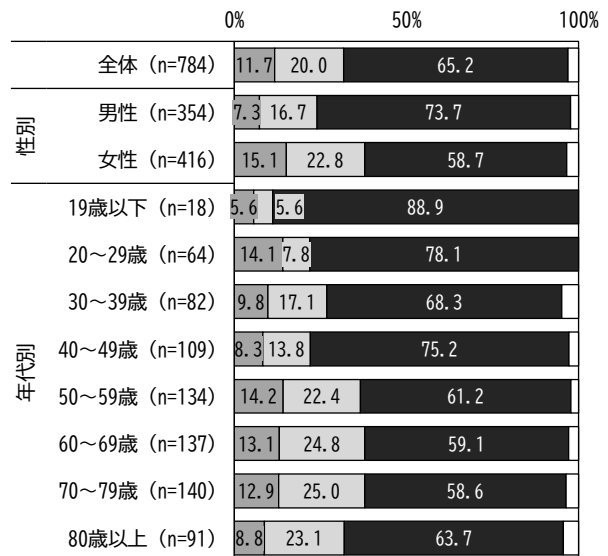
■ロコモティブシンドロームの認知度



- 内容まで知っている
- 内容までは知らなかったが、言葉を聞いたことはある
- 知らなかった
- 不明

※ロコモティブシンドローム(運動器症候群)とは骨や関節、筋肉、動きの信号を伝える神経等が衰えて「立つ」「歩く」といった動作が困難になり、要介護や寝たきりになってしまうこと。または、その危険度が高い状態のことです。

■フレイルの認知度



- 内容まで知っている
- 内容までは知らなかったが、言葉を聞いたことはある
- 知らなかった
- 不明

※フレイルとは加齢により、体や心のはたらき及び社会的なつながりが弱くなる状態のことで、そのまま経過が進むと要介護状態になる可能性があります。

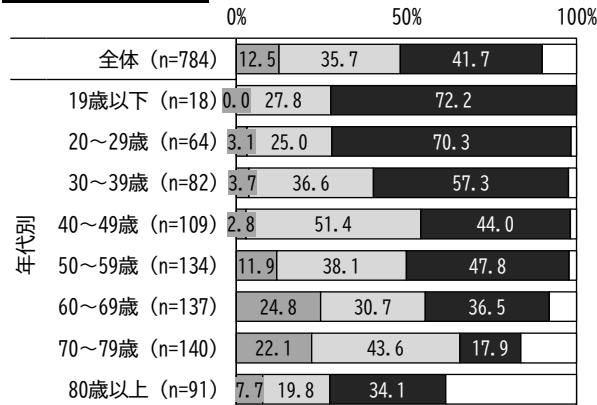
#### (4) 角田市の事業・施設の認知度及び利用状況について

角田市の事業・施設の認知度及び利用状況についてみると、全体で「1年以内に利用したことがある」が最も高いのは〈健康ポイント事業〉で12.5%となっており、特に50～70歳代の割合が高くなっています。

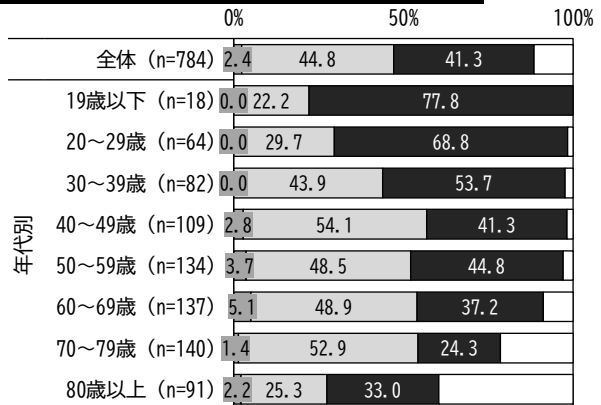
また、〈スポコム\*成人教室〉は全体で「まったく知らない」が5割を超えています。

##### ■角田市の事業・施設の認知度及び利用状況

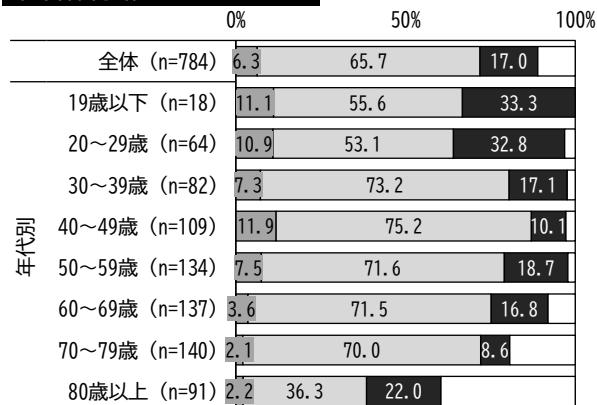
###### 健康ポイント事業



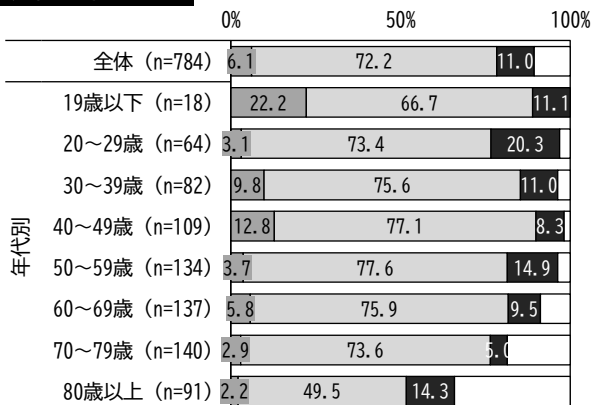
###### 総合体育館で実施しているワンコイン教室



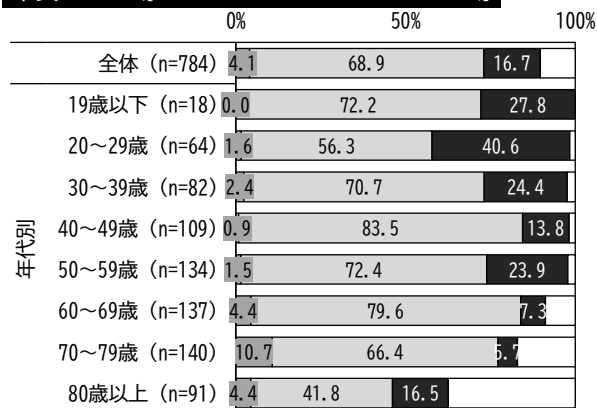
###### 総合体育館トレーニング室



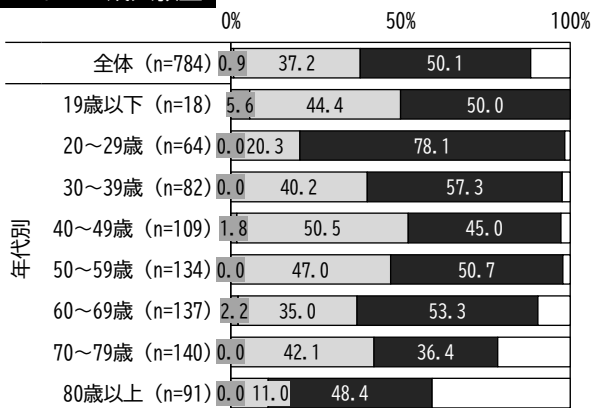
###### 屋内温水プール



###### 市民ゴルフ場またはあぶくまパークゴルフ場



###### スポコム成人教室



■ 1年以内に利用したことがある □ 聞いたことはあるが利用したことはない ■ まったく知らない □ 不明

\* 特定非営利活動法人スポーツコミュニケーションかくだの略。事務所は角田市スポーツ交流館にあり、地域スポーツコミッション「スポーツネットワークかくだ」の事務局を担当し、かくだ版アクティブチャイルドプログラムの実施、ジュニアスポーツ教室等の各種事業を展開している。

# 第3章 第1期計画の検証

## 1 成果指標の達成状況

### (1) 第1期計画の全体像

角田市スポーツ推進計画(H26～H35(R5))は、「市民1人1スポーツ」を基本理念とし、角田市の現状・課題に対応するために3つの基本目標に9つの施策の方向性を掲げました。さらに、25個の施策ごとに具体的事業を展開し、数値目標の実現を図ることとしております。

#### <計画の全体像>

    …推進体制の整備 重点施策（3本の柱）
     …本格的な事業の推進 重点施策（3本の矢）

基本目標	現状・課題	9つの施策の方向	25個の施策	9つの数値目標
ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	子どものライフスタイルの変化 角田市の小中学生の運動能力が全国平均を下回る	1 学校と地域における子どものスポーツ	1 児童生徒の健康な身体作り 2 学校体育の充実 3 社会スポーツ環境の充実	① 週2回以上運動を行う人(20歳以上)の割合 男 30%⇒41% 女 26%⇒49% ② 新体力テストにおける値が全国平均値以上の項目数 0～3項目⇒4項目 ③ 総合型地域スポーツクラブの会員数 全体 400人⇒600人 みんなの教室 323人⇒490人 ④ スポーツ少年団の団数と団員数 430団員⇒400団員 26団⇒25団
	働く世代のスポーツを行う機会、時間の減少			
	健康増進効果への注目	3 高齢者のスポーツ活動の推進	7 高齢者団体の主催するスポーツ大会への参加促進 8 高齢者の健康・体力づくり推進	
	高齢化時代へ突入、医療費等の増大			
地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進	障害者のスポーツ参加支援の必要性が高まる	5 市民参加型のスポーツイベント活動の推進	11 市民参加型のイベントの推進 12 総合型地域スポーツクラブの充実 13 スポーツ行政の改革	⑤ 人々が交流する大会開催・誘致数(全国・プロ) 3試合⇒5～6試合 ⑥ 阿武隈リバーサイドマラソン大会の参加数 2,300人⇒3,000人 市内 623人 ⇒1,000人 ⑦ 市内大会以上の規模の大会の開催数 130試合⇒135試合
	地域コミュニティの希薄化			
	コミュニティ機能、地域活性化機能への注目	7 競技スポーツの推進	16 競技団体の支援 17 指導者の育成 18 学校部活動の推奨	
	急激な少子高齢化、東京一極集中による地方消滅の危機			
競技スポーツの支援体制の未整備	9 スポーツ活動の支援体制の充実	23 スポーツ指導員の増員と指導者の質的向上 24 スポーツボランティアの育成 25 スポーツ団体・健康推進団体の育成及び支援		
誰もが快適に親しむことができるスポーツ環境の整備			ライフスタイル、個別のニーズの多様化、施設の老朽化	指導者の高齢化
	スポーツに期待される役割、機能の拡大に伴う知識、人材の不足			



## (2) 重点施策の検証

第1期計画で定めた目標値の達成状況について、以下の評価基準に基づき整理しました。

**達成状況** ①達成(目標値<実績値) ②改善傾向(基準値<実績値<目標値)

③要努力(実績値<基準値<目標値)

### 数値目標1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

	基準値 平成 25 年	実績値 平成 29 年	中間値 平成 30 年	実績値 令和 4 年	目標値	達成状況
週2回以上運動を行う人の割合	男性：30% 女性：26%	—	—	男性：30.8% 女性：29.5%	男性：41% 女性：49%	要努力
新体力テストにおける値が全国平均値以上の項目数	8項目中 0~3	8項目中 0~6	8項目中 2~4	8項目中 1~5	8項目中 4	改善傾向
総合型地域スポーツクラブの会員数(※1)	全体 400 人 うち、みんスポ 323 人	全体 512 人 うち、みんスポ 411 人	全体 486 人 うち、みんスポ 378 人	全体 422 人 うち、Jr.会員 343 人	全体 600 人 うち、Jr.会員 490 人	改善傾向
スポーツ少年団の団数と団員数	団員 430 人 団数 26 団	団員 410 人 団数 25 団	団員 432 人 団数 25 団	団員 379 人 団数 24 団	団員 400 人 団数 25 団	改善傾向

(※1)みんスポ：みんなのスポーツ=Jr.会員

### 数値目標2 地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進

	基準値 平成 25 年	実績値 平成 29 年	中間値 平成 30 年	実績値 令和 4 年	目標値	達成状況
人々が交流する大会開催・誘致数(全国・プロ)	3	3	4	2	5~6	要努力
阿武隈リバーサイドマラソン大会の参加数	2,300 人 市民 623 人	2,690 人 789 人	2,753 人 773 人	1,500 人(※2) 469 人	3,000 人 1,000 人	要努力
市内大会以上の規模の大会の開催数	130 件	150 件	162 件	77 件(※2)	135 件	要努力

(※2)令和元年~令和3年度は、台風災害・コロナ禍のため各種大会等を中止

### 数値目標3 誰もが快適に親しむことができるスポーツ環境の整備

	基準値 平成 25 年	実績値 平成 29 年	中間値 平成 30 年	実績値 令和 4 年	目標値	達成状況
公共スポーツ施設の年間延利用者数(学校施設を含まない)	210,000 人	241,473 人	248,453 人	193,725 人(※3)	270,000 人	要努力
阿武隈リバーサイドマラソン大会ボランティア数(実行委員会構成団体以外の者)	50 人	129 人	135 人	59 人(※2)	150 人	改善傾向

(※3)令和元年~令和3年度は、台風災害・コロナ禍のため施設の利用を制限

## 2 施策の方向性ごとの振り返り

### (1) 第1期計画後期期間における重点施策

第1期計画の後期期間(R1～R5)では、角田市スポーツ推進計画を効果的に推進するために、次の3つのプロジェクトを掲げ重点的に取り組みました。

#### ①みんなで取り組む風土醸成プロジェクト（3つの土台）

国の第2期スポーツ基本計画(H29～R3)によるスポーツ事業の広がりに対応するために、スポーツ関係者にとどまらず、市民、地域、各種団体に『スポーツの広がり・新たな価値を浸透』する必要があります。

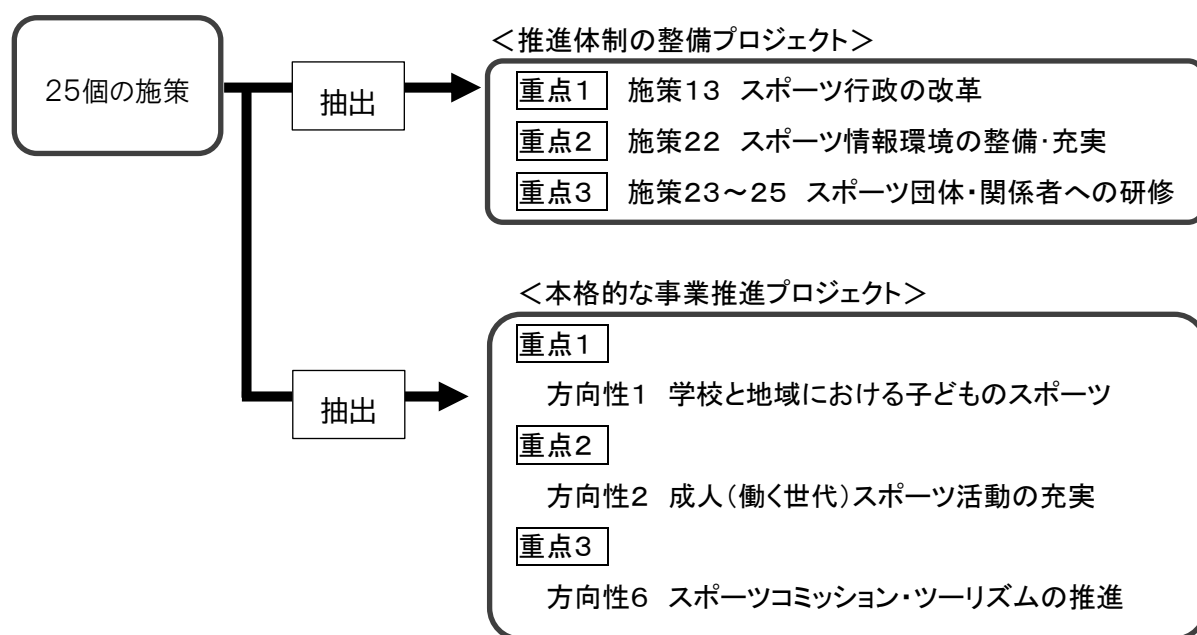
そのため、計画策定時の25個の施策に加え『みんなでスポーツを楽しむ風土を醸成するための取組み』を新たに追加し行うこととします。

#### ②推進体制の整備プロジェクト（3本の柱）

計画を効率的に進めるために25施策のうち、計画を推進するための『体制の整備に関する施策』を重点施策とし、集中的に取り組みます。

#### ③本格的な事業推進プロジェクト（3本の矢）

計画を効果的に進めるために9つの施策の方向性のうち、『優先度の高い施策』を重点施策として、優先的に取り組みます。



## (2) 重点施策の実績と評価

### ①みんなで取り組む風土醸成プロジェクト（3つの土台）

後期期間における実績と評価は下表のとおりです。さらに、次期計画で取り組むべき方向性も示しています。

評価は令和元年度と比較して ◎：大きく進展 ○：進展 △：進展していない ×：後退

実績(Do)		評価(Check)
	R1～（公財）笹川スポーツ財団との連携協定を締結。専門的サポートを受け次に取り組む	
重点施策①(追加) 今までの枠組みを超えた積極的な連携	<p>■R1.9～ 地域スポーツ運営組織「スポネットかくだ*1」を設置・運営</p> <p>◇懇談会等を開催し課題・情報共有</p> <p>R1～ 健康スポーツ懇談会</p> <p>R2～ 部活動懇談会</p> <p>◇専門チームを設置し課題の解決策を検討</p> <p>R1～ 健康チーム、情報チーム</p> <p>R2～ 乳幼児チーム</p> <p>R3～ 部活動チーム</p> <p>R4～ 車いすチーム</p> <p>*1 スポネットネットワークかくだの略称。スポーツによる地域課題解決のための協議体で、スポーツ関係団体、大学等及び行政の代表者で構成される。</p>	<p>◎</p> <p>■スポネットかくだの運営を通して今までの枠組みを超えた連携体制を構築でき、さまざまな課題解決につながった。</p> <p>■より持続可能な運営体制の構築が望まれる。</p>
重点施策②(追加) スポーツの新たな定義・価値の浸透		
重点施策③(追加) 全ての市民がスポーツ参画するきっかけの創出	<p>■R3～ 市民の健康づくりのための住民総参加型イベント「角田市チャレンジデー*2」を実施</p> <p>*2（公財）笹川スポーツ財団が主催する毎年5月の最終水曜日に行われる住民総参加型のスポーツイベント。参加者は15分以上の運動を行い、日常的な運動の習慣化を図るイベント。角田市では令和3年度から参加している。</p>	<p>○</p> <p>■チャレンジデーを通して多くの市民にスポーツを参画するきっかけを創出できた。</p> <p>■スポーツ無関心層への効果的な働きかけが必要。</p>

#### 今後の方向性

- ・ スポネットかくだの運営を通して幅広い連携体制が構築され、さまざまな課題解決と事業展開につながり、大きな成果を得ることができました。
- ・ 国の「第3期スポーツ基本計画」の策定により、スポーツ事業がさらに広がりを見せていることから、スポネットかくだの連絡調整機能がより一層重要となります。このことから、より持続可能な運営体制の構築が望まれます。

## ②推進体制の整備プロジェクト（3本の柱）

後期期間における実績と評価は下表のとおりです。さらに、次期計画で取り組むべき方向性を示しています。

実績(Do)	評価(Check)
<b>施策13 スポーツ行政の改革</b> <b>■事務の効率化・見直し</b> ・R4～ 4施設の指定管理をKスポとして1つにまとめることで指定管理者がスケールメリットを生かせる体制を構築(施設の一体管理による費用削減、職員配置の柔軟性の確保、施設間で連携した事業の提供等) <b>■財政基盤の強化</b> ・(継続)toto 助成金の有効活用 ・(継続)国庫補助等の有効活用 ・R2～ 企業版ふるさと納税の活用	◎ <b>■指定管理の見直しにより、本計画を推進するための体制の整備が図れた。</b> <b>■引き続きさまざまな観点から財源確保する必要あり</b>
<b>施策22 スポーツ情報環境の整備・充実</b> <b>■スポネットかくだ 情報チームで企画・調整を開始</b> ・R1～ 地域スポーツ情報誌「スポプレ」を年11回発行 ・R1～ 道の駅との連携チラシ「つなぐ」の定期発行 ・R2～ SNSの活用開始 ・R4～ 道の駅情報コーナーにスポーツコーナーを設置	◎ <b>■情報環境の整備は十分に行われた。</b> <b>■スポーツ無関心層への情報発信について工夫が必要</b>
<b>施策23～25 スポーツ団体・関係者への研修</b> <b>■R4～ 指定管理の更新に伴いスポーツ交流館の業務拡充</b> ・スポーツ団体活動の支援、関係者への研修拡充	○ <b>■人材育成に努めたが、スタッフ・指導者の高齢化に対応するための十分な後継者育成には至らなかった</b>

### 今後の方向性

- ・重点施策として取り組みましたが、まだ上記のとおり課題も多いことがわかりました。
- ・次期計画においても、「実施体制の整備」は引き続き重要であり、継続した取り組みが必要となります。

### ③本格的な事業推進プロジェクト（3本の矢）

後期期間における実績と評価は下表のとおりです。さらに、次期計画で取り組むべき方向性も示しています。

実績(Do)	評価(Check)
<b>方向性1 学校と地域における子どものスポーツ</b> <b>■スポネットかくだ 乳幼児チーム</b> で企画・調整 ・R2～ 元気な子を育成するために、効果が期待できる乳幼児期に運動あそびを提供する「かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム」を開始  <b>■スポネットかくだ 部活動チーム</b> で企画・調整 ・R4 部活動の地域移行推進基本計画の作成 ・R5～ 段階的な地域移行の開始	◎ <b>■乳幼児期の取組みは、アンケート結果から子どもの運動実施に対する気持ちに好影響がある等、成果あり。</b> <b>■中学校の部活動については現状分析を踏まえた今後の方向性をまとめることができたが今後の円滑な実施が求められる。</b> <b>■幼保小中の連携による効果的な取組みにつなげるためにも<u>小学校の現状分析が必要。</u></b>
<b>方向性2 働く世代のスポーツの充実</b> <b>■スポネットかくだ 健康チーム</b> で企画・調整 ・R3～ 角田市チャレンジデーの開始 ・R4～ Kスポ指定管理者により、トレーニング室のリニューアル、福利厚生施設として企業向けの特別会員制度開始等	○ <b>■特にトレーニング室のリニューアルが働く世代のスポーツを推進。</b> <b>■Kスポの企業の福利厚生事業でのさらなる活用や<u>スポーツ無関心層への働きかけが望まれる。</u></b>
<b>方向性6 スポーツコミッション・スポーツツーリズムの推進</b> <b>■Challengemillion 市民会議(R1～R3)、スポネットかくだ(R4～)がアウター事業(交流人口拡大)を企画・調整し、スポーツと道の駅が連携する「かくだ版スポーツツーリズム」を展開</b> ・R1～ <u>健康拠点化事業</u> （道の駅にウォーキングステーション設置、市ウォーキング協会設立支援等） ・R2～ <u>幼児遊び場事業</u> （交通公園(愛称「どんぐりぱーく」)に幼児遊具の設置、バランスボール広場特設等） ・R3～ <u>大会誘致事業</u> （ドリームベースボール(宝くじ事業)を誘致等）	◎ <b>■交通公園(どんぐりぱーく)には多い日で2000人を超える来場があり道の駅の売り上げにも貢献している。</b> <b>■アフターコロナに向け、健康づくり運動イベントの新規開催や、<u>大会・スポーツ合宿の再開について効果的な受入れが望まれる。</u></b>

#### ↓ 今後の方向性

- ・重点施策としての取組みにより具体的な成果はでていますが、上記のとおり新たな課題もでてきている状況です。
- ・次期計画においては、新たな課題の解決に取り組むことで、さらなるスポーツ推進が期待されます。

- ・ 25個ある施策を10年間で効率的で効果的に推進するために、前期5年間で体制の整備を進め、後期5年間で本格的な事業を推進したことで、一定の効果を得ることができました。
- ・ また、後期から追加して取り組んだ『みんなで取り組む風土醸成プロジェクト』も有効でした。
- ・ 次期計画においても、計画を効率的で効果的に進めるために、引き続き『みんなで取り組む風土醸成』の取り組みや『重点施策の設定』が必要であることが確認できました。

# 第4章 計画の方向性

## 1 基本理念

### 基本理念

『アクティブシティかくだ』の実現  
～明るく楽しく健康で活力のあるまちづくり～

少子高齢化にあるなかで、今後のスポーツ振興においては、スポーツ活動を単に各個人の志向レベルにとどめずに、「まちづくり」「地域振興」にもつなげていく取組みが求められます。スポーツ振興を中核として様々な分野と連携した取組みにより、交流人口の拡大や持続可能なコミュニティの形成等を目指していく必要があります。

また、スポーツ基本法には、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」であることが示され、スポーツの果たす役割の重要性がうたわれています。ライフステージに応じた取組みを展開することで、市民の誰もがスポーツに親しみ、心身の健康保持増進に寄与することが期待できます。特に、運動・スポーツに関わっていない層へ働きかけながら、参加の裾野を広げていくことが重要です。

これらを踏まえ、スポーツを普段の生活から能動的に実施することで、市民の幸福度を上げていくとともに、多方面への波及効果を促すことを見据え、スポーツにより明るく楽しく健康で活力あるまち(=アクティブシティかくだ)の実現を目指すこととします。



※令和6年2月3日(土)黒須市長がアクティブシティ宣言を行いました。

## 「アクティブシティ」とは？

スポーツ、運動、およびその他の身体活動(以下、「スポーツ等」という。)の推進に携わる官民の関係組織や個人が、住民の健康づくりやウェルビーイングの向上に貢献するとともに、スポーツ等がもつ多様な価値を活かして地域の社会課題の解決に取り組んでいる自治体のこと。

スポーツ等をしない、またはできない人を含む、すべての住民の生活の豊かさや、安全・安心にスポーツ等が広く貢献していくことを目指している状態をいう。

### アクティブ

スポーツ等を含む多様な余暇活動や社会活動に多くの住民が参加しているとともに、幅広い世代の住民や地元企業等がまちづくりに積極的に参画している状態。

### ウェルビーイング(Well-being)

世界保健機関(WHO)が定義する「個人や社会の良好な状態(a positive state experienced by individuals and societies)」。「健康と同様、日常生活のリソースであり、社会的、経済的、環境的な状況によって決定される」と説明されている。

### スポーツ等がもつ多様な価値

達成感や爽快感、体力向上や健康増進といった個人的恩恵・価値に加えて、人々の社会性や生きる力を育む「教育的価値」、人とのつながり・交流を生み、社会的紐帯<sup>ちゆうたい</sup>\*を形成する「社会的価値」、産業振興や医療費の削減につながる「経済的価値」等が挙げられる。

\* 社会的紐帯とは、ある集団や社会に属する個人相互を結びつけているさまざまな条件。共同社会では血縁や地縁、利益社会では類似や利害等。



## 2 本計画の基本目標

基本理念の実現に向けて、基本目標の方向を定めます。

なお、基本目標の設定に際しては、「みんなで支えあう 健康で元気なまちの実現」を目指す、第3次角田市健康増進計画をはじめとする他の計画とも連携・連動することで、本計画を効果的に推進します。

### 基本目標 1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

#### ～スポーツによる健康増進～

スポーツには多様な効果があり、私たちの生活の質の向上をもたらします。年齢や体力、そして障害の有無を問わず、誰もがスポーツを身近に感じ、あらゆるライフステージを通じて、日常的にスポーツを楽しむことができるよう、市民一人ひとりのレベルや志向、環境に見合ったスポーツ施策に取り組みます。

#### 施策

- 1-1 乳幼児、子ども及び小中高生等のスポーツの推進
- 1-2 働く世代・子育て世代のスポーツ活動の推進
- 1-3 高齢者のスポーツ活動の推進
- 1-4 障がい者のスポーツ活動の推進

### 基本目標 2 日常における身体活動の推進

#### ～多様な主体におけるスポーツの機会創出～

余暇時間の少ない働き盛り世代を中心に日常生活において意識的に運動を心がけ、身体活動を増やすことが求められています。

誰もが少しの時間でも日常生活での運動を心がけ、日常的に運動を行うことを習慣化し、楽しみととらえ、健康でいきいきと生活できるよう啓発やきっかけづくりに取り組みます。

#### 施策

- 2-1 日常生活における身体活動の推奨
- 2-2 家庭における身体活動の推奨
- 2-3 職場における身体活動の推奨

### 基本目標 3 地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進

#### ～スポーツによるまちづくり～

市民が生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツに楽しく取り組むことができる環境を整備することは、スポーツの持つ力により、スポーツへの参加意欲や地域の一体感、活力を醸成し、絆の再生につながるとともに、新たな交流の輪を生み出します。

市民の誰もが、それぞれのライフステージに応じて、継続してスポーツに親しむことができるよう、スポーツ活動機会の創出を図ります。

また、角田市とゆかりのあるプロスポーツチーム及び企業スポーツ、大学との連携により、競技力向上を図る環境づくりを進めるとともに、スポーツクラブ活動における競技力の向上を図ります。

施策	3-1 市民参加型のスポーツイベント活動の推進
	3-2 スポーツツーリズムの推進
	3-3 競技スポーツの推進

### 基本目標 4 誰もが快適に親しむことができるスポーツ環境の整備

#### ～スポーツを通じた共生社会の実現～

市民誰もがスポーツに取り組むことができるよう市民のニーズに対応するとともに、全ての人がスポーツ施設・設備を安全・安心に利用できるようスポーツ施設・設備の効率的な運用、計画的な改修、整備に取り組めます。

また、広報紙、ホームページ、SNS等多様な媒体からの情報発信を充実させるとともに、団体の活動支援を行います。

施策	4-1 公共施設の有効活用の促進
	4-2 効果的な情報発信
	4-3 スポーツ団体活動の支援体制の充実
	4-4 スポーツに関わる人材の育成と活躍の場の確保
	4-5 自然と体を動かしたくなる、動かしてしまう環境の整備

### 3 本計画の成果指標

基本目標	指標	基準値 (令和4年度実績)	目標値 (令和15年度)
1	(運動の習慣化) 週2回以上の運動を行う人(20歳以上)の割合	男性: 30.8% 女性: 29.5%	▶ 男性: 40% 女性: 40%
1	(身体活動の習慣化) 運動に加え生活活動(日常生活における家事・労働・通勤・通学等を伴う活動)で歩行と同程度以上の活動を1日30分・週2回以上行う人の割合	65.7%	▶ 75.0%
1	新体力テストにおける値が全国平均値以上の項目数	8項目中 1~5項目	▶ 8項目中 4項目
1	総合型地域スポーツクラブの会員数	全体: 422人 Jr.会員: 343人	▶ 全体: 600人 Jr.会員: 490人
1	スポーツ少年団の団数と団員数	団員数: 379人 団数: 24団	▶ 団員数: 400人 団数: 25団
2	角田市チャレンジデー参加率	30.9%	▶ 50.0%
3	人々が交流する大会開催・誘致数(全国・プロ)	2試合	▶ 5試合
3	阿武隈リバーサイドマラソン大会の参加数	1,500人 (市内: 469人)	▶ 2,000人 (市内: 1,000人)
3	市民大会以上の規模の大会の開催数	77件	▶ 100件
4	公共スポーツ施設の年間延利用者数	193,725人	▶ 250,000人
4	阿武隈リバーサイドマラソン大会ボランティア数(実行委員会構成団体以外の者)	59人	▶ 150人

図1：身体活動（生活活動・運動・座位行動）の概念図



※健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023 より

\* メッツとは、身体活動の強度を表し、安静座位時を1メッツとし、その何倍のエネルギーを消費するかという指標。身体活動・運動の強度の一覧については、参考資料を参照。身体活動によるエネルギー消費量(kcal)は、メッツ×時間(h)×体重(kg)で推定することが可能である。例：体重 50kg の人が、30 分の歩行(3メッツ)を行った場合のエネルギー消費量は、3(メッツ)×0.5(h)×50(kg)=75kcal と推定できる。

# 第5章 施策の展開

## 基本目標1 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

### 施策1-1

## 乳幼児、子ども及び小中高生等のスポーツの推進

スポーツの体験やきっかけづくり、成果を発揮できる機会の充実等、関係団体と連携しながら取り組みます。

子ども達が、様々な他者と関わる際に、その存在と頑張りを認めてくれる環境は重要です。自ら興味や関心を持ち、学校や家庭、地域コミュニティの関わりの中で、気軽にスポーツを楽しみながら体力向上、運動の習慣化につながるような施策を展開します。

### 具体的な施策

#### ①未就学児の健康な身体づくりと体力・運動能力の向上

- 「幼児期運動指針\*」に示された1日60分の運動の確保
- 「かくだ版アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）\*」による実践
- 乳幼児対象の運動教室の支援

#### ②小学生におけるスポーツ推進

- 小学校の体育授業の充実
- スポコムジュニアスポーツ教室、スポーツ少年団への加入の促進
- 運動が苦手な子どもが楽しめる運動機会の提供

#### ③中高生におけるスポーツ推進

- 「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（スポーツ庁）」の遵守による健全な部活動の推進
- 部活動の地域移行への円滑な移行支援及び多様な体験機会の創出（+チャレンジ活動）

\* 「幼児期運動指針」：文部科学省が平成24年3月に、幼児期からの運動習慣を通して、体力・運動基礎を培うとともに、様々な活動への意欲や社会性、創造性を育むことを目指すために策定された指針。

\* 「アクティブ・チャイルド・プログラム（Active Child Program）」：日本スポーツ協会が提供しており、子ども達が楽しみながら積極的に体を動かすことができるように、子どもの発達段階に応じて身につけておくことが望ましい動きを習得する運動プログラム。

## 働く世代・子育て世代のスポーツ活動の推進

働く世代・子育て世代は仕事や家事、育児で時間的・精神的な余裕が限られ、スポーツの実施が困難な方が比較的多い世代です。様々な時間帯・場所でスポーツができる環境の充実を図るとともに、限られた時間の中で簡単に実施できるスポーツの普及啓発を図ります。

また、男性に比べて、女性がスポーツに取り組む割合は低いため、女性がスポーツしやすい環境づくりに努めます。

### 具体的な施策

#### ①家族で楽しめるスポーツプログラムの実施

- ウォーキングやジョギング等、日常的に取り組むことができる運動の習慣化の支援
- スポーツ庁の「体力・運動能力調査」を活用した体力チェックや自己管理の支援
- 親子で参加できるスポーツイベントの開催

#### ②スポーツ・レクリエーションへの参加の促進

- 地域のスポーツ・レクリエーションイベント（地区民球技大会・運動会等）への参加促進
- 角田市チャレンジデーによる無関心層への働きかけ

#### ③健康・体力維持向上・疾病予防のためのスポーツ・運動の推進

- 健康ポイント事業/K スポトレニング室等、企業の福利厚生事業としての活用

#### ④女性のスポーツ参加促進・環境整備の検討

- K スポの指定管理者によるワンコイン教室等への参加促進
- スポコム成人スポーツ教室等の運動機会の提供

### 施策1-3

## 高齢者のスポーツ活動の推進

団塊の世代が高齢期に入り高齢者人口が増えている中で、健康志向は増大しつつあります。

高齢者が無理なく日常的に取り組むことのできる運動・スポーツの提供や健康維持に関する教室やイベントの開催で笑顔あふれるまちづくりを目指します。

#### 具体的な施策

##### ①身近な地域で気軽に参加できる運動機会の提供

- 健康ポイント事業、ついでにお得コソコソ活動事業、各種スポーツ教室の開催等
- 運動サークル活動の育成、支援

##### ②高齢者スポーツ大会への参加促進

- 高齢者が気軽に参加できるスポーツ大会の開催

##### ③世代間交流によるスポーツ活動の企画

### 施策1-4

## 障がい者のスポーツ活動の推進

角田市では、全ての市民が互いに人格と個性を尊重しあいながら、安心して暮らすことのできる共生社会を目指しています。

障害の有無にかかわらず、誰でも楽しめる障がい者スポーツの普及・促進を図るとともに、障がい者が身近な場所で自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、関係団体と連携しながら取り組みます。

#### 具体的な施策

##### ①パラスポーツ普及の促進・障がい者対応の種目紹介や体験

- パラスポーツ普及に向けた体験会の開催
- スポネットかくだ車いすバスケットチームと連携したパラスポーツの普及促進
- K スポトレニング室での運動体験会の開催

##### ②スポーツ大会・レクリエーション大会への参加促進

- 全国障害者スポーツ大会等、各種スポーツ大会への参加支援

## 基本目標2 日常における身体活動の推進

### 施策2-1

## 日常生活における身体活動の推奨

運動不足を感じながらもスポーツをする時間が取れない場合には、歩く・走るといった日常的な動作を増やすことも非常に有効です。

各種競技や体育館等の専門施設で実施する、競技性や専門性を追求する活動に限らず、普段の日常生活において、体を動かすこと、習慣化することを推奨します。

#### 具体的な施策

- ①角田市チャレンジデー参加率の向上

### 施策2-2

## 家庭における身体活動の推奨

家庭におけるストレッチや散歩に加え、洗面や清掃といった日常的な身体活動を意識的に行うことで、普段スポーツをする習慣のない人が、身近に身体を動かす動機づけにつながります。

目的や楽しみをもって意識的に身体を動かすこともスポーツであるという考え方を広め、家庭における日常的活動を推進します。

#### 具体的な施策

- ①家庭でできる健康づくりメニューの推奨

## 職場における身体活動の推奨

職場内での移動や通勤時での階段利用の促進、オフィスでのアクティブな就業環境づくりによる「健康経営」の取組みが広がりつつあります。企業内部での取組みを促し、職場における日常的活動を推進します。

### 具体的な施策

#### ①市内企業に対する「健康経営」の推奨

#### ②職場におけるスポーツ活動の促進

- 昼休み時間を有効活用してスポーツ活動を行う「昼活」の推奨
- 職場におけるスポーツイベントの企画運営支援



## 基本目標3 地域に夢と活力をもたらすスポーツ交流の促進

### 施策3-1

## 市民参加型のスポーツイベント活動の推進

スポーツを活用した地域活性化への期待が高まるなかで、地域において、市民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」の機会を提供していきます。

スポーツ団体や関係者の連携促進により、スポーツを通じた地域課題の解決に取り組めます。

#### 具体的な施策

##### ①市民参加型のイベントの推進

- 地区民球技大会・運動会／阿武隈リバーサイドマラソン大会／スポーツフェスティバル等の開催

##### ②総合型地域スポーツクラブの充実

- 総合型地域スポーツクラブの支援
- 「誰でも」「いつでも」「いつまでも」参加できる事業の増加

##### ③地域スポーツ運営組織「スポーツネットワークかくだ」の充実

- K スポと道の駅の連携による「運動×食×交流」の健康増進事業の開催
- 課題把握のための仕組みを構築し、専門チームで解決を図る

### 施策3-2

## スポーツツーリズムの推進

人口減少・少子高齢化が進行する中、角田市の持つ魅力を活かしたスポーツイベント等の開催により、交流人口を増やし、観光等市内の回遊性を高めることで地域産業を活性化します。

#### 具体的な施策

##### ①観戦スポーツ・トップアスリートとの出会いの推進

- 大会誘致、開催支援／プロスポーツや全国大会等の誘致開催

##### ②スポーツ交流の促進

- 阿武隈リバーサイドマラソン大会／スポーツ合宿や各種研修会等の環境整備

## 競技スポーツの推進

競技力向上や指導者の資質向上等を図るため、各種団体と連携し、競技団体が実施する大会の開催や人材育成等の取組みを支援するとともに、組織運営に関する助言、情報提供等を行います。

### 具体的な施策

#### ①競技力向上を図る競技団体の支援

- スポーツ振興事業助成金の交付／K スポを活用したスポーツ大会の開催

#### ②指導者の育成

- 角田市スポーツ協会の研修会、各競技団体における指導者育成の支援

#### ③地域クラブ活動の推奨

- 部活動指導員の充実

#### ④プロスポーツを活かしたスポーツの振興

- 角田市に縁のあるプロスポーツチームをはじめ、企業スポーツや大学等との連携

## 基本目標 4 誰もが快適に親しむことができるスポーツ環境の整備

### 施策 4-1

## 公共施設の有効活用の促進

民間活力の導入等も踏まえ、角田市の拠点性を活かしたスポーツ施設のあり方を検討するとともに、サービス機能を維持しながら、安全・安心に利用していただけるよう、利用環境の充実に取り組みます。

### 具体的な施策

#### ①学校体育施設の開放事業の充実

- 学校体育施設開放事業

#### ②市民のニーズに応じたスポーツ施設の整備

- スポーツ施設の長寿命化や省エネルギーに配慮した整備・改修方針の検討

#### ③施設の安全と利便性の向上

- スポーツ施設の整備

### 施策 4-2

## 効果的な情報発信

市民がスポーツに気軽に取り組むためには、情報を手軽に入手できる環境づくりが不可欠です。

市民が様々なスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツ施設の利用やイベント、スポーツ団体の情報等を広報紙やホームページ、SNS 等を通じて発信します。

### 具体的な施策

#### ①各種スポーツ情報の充実

- スポーツプレスかくだの発行

#### ②多様な媒体での情報発信

- スポネットかくだの情報発信チームによる SNS を用いた情報発信

## スポーツ団体活動の支援体制の充実

市民が気軽にスポーツに親しみ楽しむためには、身近な地域でスポーツに取り組める環境の整備が重要です。スポーツ協会をはじめ、スポーツ少年団等の地域のスポーツ組織は、市民が生涯にわたってスポーツに参加できる基盤となるとともに、地域社会においても重要な意義を持つものと考えられます。

市民が主体的に参画する地域のスポーツを支える組織及びスポーツボランティア等の育成・支援に取り組み、スポーツを地域に根付かせ、自主的なスポーツ活動を活性化させていくほか、スポーツ活動を支えるスタッフ・ボランティアの必要性や活動内容を市民に周知し、活動機会の拡充に取り組みます。

### 具体的な施策

- ①スポーツ団体・健康推進団体の育成及び支援
  - スポコムかくだの運営支援／スポーツ交流館でのスポーツ団体支援
- ②地域スポーツクラブと学校との連携推進

## スポーツに関わる人材の育成と活躍の場の確保

専門的な知識を持った指導者、スポーツの楽しさを伝えられる指導者等、適切に指導を行うことができるスポーツ指導者の存在は不可欠です。関係団体と連携し、競技力の向上を図ります。

また、スポーツを行う場合にケガをする恐れもあることから、応急手当や救命救急講習等を定期的に関催し、早急に対応できる体制づくりに務めます。

### 具体的な施策

- ①指導者の育成
  - スポーツ推進委員活動事業
- ②専門指導者の派遣や特別講習会等の開催
  - スポーツ指導者養成講習会等の開催
- ③スポーツ協会や競技団体との連携による強化事業の展開
  - スポーツ協会を中核とした各競技団体の強化

## 自然と体を動かしたくなる、動かしてしまう環境の整備

安全に運動できる公園やグラウンド、散歩したくなるような歩道があると、自然と体を動かしたくなる等、スポーツ活動にあたっては、環境に左右される面が大きくなっています。自然と体を動かしたくなる、動かしてしまう環境の整備を進めます。

### 具体的な施策

- ①公園やグラウンド、散歩したくなるような歩道等の環境整備
- ②健康ポイント事業を活用した運動機会の拡充
- ③ナッジ理論\*を活用した周知・啓発

\* ナッジ理論：(nudge=ひじで軽く突く)行動経済学上、対象者に選択の余地を残しながらも、より良い方向に誘導する手法。



## 第2期角田市スポーツ推進計画 令和6年3月

発行 角田市

編集 角田市 教育委員会 生涯学習課

住所 〒981-1592

電話 0224-63-2221 FAX 0224-63-5633

電子メール syougaku@city.kakuda.lg.jp